

8 リテラシー教育の実績

8.1 リテラシー教育の実施

(1) 図書館活用法※1 * 半期2単位 (駿河台：春学期, 生田：秋学期, 中野：秋学期, 和泉：2006 年より春学期・秋学期に開講)

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	履修者数	43	57	50	73	67	36	66	57	49
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	14 (10)	12 (9)	14 (10)	15(11)	15(13)	15(11)	15(11)	14(10)	14(10)
	担当講師数 ※3	13 (10)	13 (11)	13 (9)	14(10)	14(10)	15(12)	13(11)	13 (8)	13 (8)
和泉図書館	履修者数	262	231	253	244	240	315	331	295	306
	開講数	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	授業回数 ※2	56 (40)	52 (38)	56 (40)	60(44)	58(42)	56(40)	58(46)	56(36)	56(32)
	担当講師数 ※3	25 (22)	27 (23)	24 (22)	24(22)	29(27)	27(25)	27(25)	29(23)	27(24)
生田図書館	履修者数	42	30	36	26	36	29	27	76	36
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	13 (9)	14 (10)	14 (10)	15(10)	15(10)	15(10)	14(9)	14(6)	14(6)
	担当講師数 ※3	9 (6)	10 (7)	9 (6)	9(6)	10(6)	9(6)	10(6)	12(6)	13(7)
中野図書館	履修者数				11	10	16	32	4	9
	開講数				1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2				15 (10)	15(10)	14(10)	15(10)	14(9)	14(8)
	担当講師数 ※3				8 (5)	8(5)	7(5)	8(5)	8	7(3)
履修者総数		347	318	339	354	353	396	456	432	400

※1 2000 年開講

※2 カッコ内の数字は職員が担当した回。ただし、教員とともに担当した回は除く。

※3 複数のキャンパスを担当した場合はそれぞれに計上。カッコ内の数字は職員。

(2) ゼミツアー * フリーツアー (すべての利用資格者対象) 含む

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	回数	81	59	62	62	56	61	59	60	62
	履修者数	905	689	851	714	617	620	719	725	749
和泉図書館	回数	153	139	263	195	170	169	150	134	123
	履修者数	2,738	2,221	3,278	2,864	2,741	2,999	2,902	2,432	2,405
生田図書館	回数	31	28	38	25	21	18	13	23	23
	履修者数	202	163	184	167	218	211	132	261	272
中野図書館	回数				28	21	20	28	20	18
	履修者数				396	255	265	361	308	238

(3) 出前講義 * 「図書館活用法」を除く教室授業, 図書館以外施設授業など

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	回数								0	0
	履修者数								0	0
和泉図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生田図書館	回数	12	8	8	8	8	10	18	18	18
	履修者数	443	294	300	286	286	422	384	405	417
中野図書館	回数				3	2	2	3	3	9
	履修者数				22	30	40	50	71	216

(4) 各種講習会 * 情報・文献検索講習会, DB 講習会, テーマ別講習会, グループガイダンスなど

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	回数	28	26	19	19	20	18	20	4	10
	参加者数	269	296	221	196	222	190	107	9	73
和泉図書館	回数	35	45	59	51	40	22	19	8	5
	参加者数	486	283	397	260	384	291	147	101	145
生田図書館	回数	13	17	22	10	23	8	1	2	13
	参加者数	118	137	71	200	197	121	7	62	320
中野図書館	回数				17	23	10	4	4	6
	参加者数				80	68	84	11	9	9

(5) オリエンテーション * 新入生, 新任教員, 三年次, 留学生など

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	回数	9	6	8	8	13	12	10	7	8
	参加者数	1,501	1,076	1,404	1,132	970	893	1,148	1,278	1,094
和泉図書館	回数	13	15	12	8	8	7	11	13	13
	参加者数	5,864	5,486	5,232	4,987	5,196	5,677	5,093	7,881	5,222
生田図書館	回数	4	4	4	4	4	6	4	4	4
	参加者数	1,585	1,683	1,640	1,632	1,698	1,595	1,612	1,612	1,562
中野図書館	回数				6	5	5	7	8	8
	参加者数				890	627	665	784	889	806

(6) 見学・視察 * 各種団体, 個人, 学校など

		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
中央図書館	回数 ※ 1	148	129	140	134	100	95	88	97	11
	参加者数	3,752	3,470	3,785	4,088	3,229	3,108	3,027	3,302	843
和泉図書館	回数 ※ 1	7	13	118		140	88	54	54	47
	参加者数	162 (303) ※ 2	491	3,502	2,099	3,791	2,134	2,829	2,829	2,139
生田図書館	回数 ※ 1	1	-	1		0	3	2	2	1
	参加者数	591	312	532	232	285	2,972 ※ 3	453	453	516
中野図書館	回数 ※ 1				43	31	13	3	7	3
	参加者数				2,083	1,638	3,089	2,625	2,718	2,277

※ 1 個人での見学は含まない

※ 2 カッコ内の数字は建物外からの概要説明のみ

※ 3 オープンキャンパスの参加者数を含む

8.2 学部間共通総合講座「図書館活用法」

《春学期》
駿河台キャンパス

図書館活用法		コーディネーター
		経営学部 森 久
駿河台	2単位 春学期	木曜日 2時限
1 授業の概要・到達目標		
1. 図書館の概要、施設、サービス内容を知り、図書館の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになります。(図書館リテラシー) 2.さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになります。(情報リテラシー) 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになります。(学術リテラシー) 4. 実践活動に役立つ企業情報を手に入れます。		
2 授業内容		
① 4月12日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待（明治大学図書館の役割、設備・資料・サービス） 経営学部専任教授 森 久 中央図書館事務長 横井 淳子		
大学で学ぶためには、図書館を利用することが不可欠です。図書館の膨大な蔵書は、誰かから教養、新しい知識を授けようという貴重なものといえます。初年度では、まず大学図書館の役割や重要性を明らかにしたうえで、「図書館活用法」という授業科目の意義、内容、レポート提出、成績評価などについて説明します。そして後半では、中央図書館事務長より明治大学図書館の概要を紹介します。		
② 4月19日 図書館ツアー（図書館の概要とバックヤードツアー） 図書館総務事務長 伊藤 秀明 図書館職員 飯塚 貴子		
大学図書館の施設やサービス、資料の特徴を知り、それらの利用方法を理解することは、大学図書館の存在意義を理解することの第一歩です。この回では、前回に引き続き図書館の概要説明を行った後、実際に館内を回り理解を定めます。さらに、普段は見ることのないバックヤードのツアーを行い、大学図書館の業務などようなプロセスで行われているかを紹介します。		
③ 4月26日 レポート・論文の作成方法 経営学部専任教授 森 久		
レポート・論文・自分の調査・研究内容について論理に記述し、発表し、他者の理解を得るために書かれます。大学教育ではレポート・論文の作成が重視されており、この授業ではその作成方法について説明します。また、先行研究を調べることの重要性、著作権を意図した書き方などについても取り上げます。		
④ 5月10日 図書館と著作権 情報コミュニケーション学部専任准教授 今村 哲也		
学習、研究、論文・レポートの作成においては、多くの図書館や雑誌（論文）、インターネット上の情報も利用します。これらの著作物・情報の権利にあることは、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法に沿った検索・情報の適切な利用方法を学びます。		
⑤ 5月17日 研究と図書館 経営学部専任講師 宇野 伸洋		
研究者にとって、数多くの図書館や論文、データなどを利用することは不可欠です。そこで、教員と大学院生の研究活動に図書館がどのように関わっているのか、特に論文を作成するさいに図書館を活用することがいかに重要であるかについて説明します。		
⑥ 5月24日 書物の読み方 経営学部専任教授 宇野 敬		
IT時代においては、書物の読み方もそれぞれだと思われます。基本的に、本は知識の宝庫です。心に残る一冊もしくは一行に出会うことができれば、その後の人生を豊かにしてくれることもあります。そういう意味において、特に学生時代に大学図書館の果たす役割は重要であり、学生諸君にはアル活用が求められています。		
紙媒体の本とKINDLEなどの電子書籍を利用した読書との本質的な違いは何かなども話題とすることで、日本とイギリスの図書館活用法を比較検討して、時代を越えた「書物の読み方」を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。		
⑦ 5月31日 文獻・情報の探し方（1）文獻情報検索、図書館の入手と利用【演習】 図書館職員 土田 大輔		
図書館や雑誌などの資料形態について種類があり、それぞれ役割や特徴があります。学術情報や一般図書館の流通過程を理解し、各資料をよくよく活用できるよう解説します。また、図書館の蔵書とその入手の仕方を習得します。なお、この授業の受講前に、図書館OPACの基礎的な検索方法を過去年度のレジュマや図書館HPに掲載している動画（「図書館リテラシー入門講座」）により、各自予習しておくください。		
⑧ 6月7日 文獻・情報の探し方（2）雑誌・論文情報の入手と利用【演習】 図書館職員 柴屋 晋		
研究発表は雑誌に掲載されることも多く、最新の知見を取り入れるためには、雑誌論文の活用が不可欠です。本講では論文データベースの検索、参考文献リストからの論文検索、入手した論文文獻リストを作成する等の演習を通じて、雑誌論文を効率的に探し、入手する方法を学びます。		

和泉キャンパス（4時限）

図書館活用法		コーディネーター
		文学部 齋藤 泰則
和泉	2単位 春学期	水曜日 4時限
1 授業の概要・到達目標		
1. 図書館の概要、施設、サービス内容を知り、図書館の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 4月11日 イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明） 文学部専任教授 齋藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子		
本講義は、大学での学習に必要な図書館活用法に必要な知識とスキルの習得を目的とします。書誌・索引、辞書・事典などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のための必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書館リテラシー入門講座）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。		
② 4月18日 図書館の機能と情報資源 文学部専任教授 齋藤 泰則		
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・整理・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能（図書館情報資源に関する基本的知識とスキル）について取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探索するために必要な検索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。		
③ 4月25日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用 文学部専任教授 齋藤 泰則		
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の整理と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するための必要な情報検索や専門書等の活用、および書誌・索引・目録を利用した専門図書館や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。		
④ 5月9日 図書館サービスと著作権 文学部専任教授 青柳 英治		
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書館、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に関して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。		
⑤ 5月16日 図書館の歴史と図書館 文学部専任准教授 三浦 太郎		
図書館の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在の姿に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな変化がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。		
⑥ 5月23日 文獻・情報の探し方（1）図書①【演習】 図書館職員 小倉 さなえ・櫻井 真理子		
明治大学図書館蔵書検索システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分冊、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけて、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑦ 5月30日 文獻・情報の探し方（2）図書②【演習】 図書館職員 小倉 さなえ・櫻井 真理子		
前回の内容をよまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑧ 6月6日 文獻・情報の探し方（3）雑誌論文①【演習】 図書館職員 飯塚 貴子・杉谷 美和		
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事ページ、雑誌掲載ページの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号を施し、一括引用機能などを含まず、さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的に雑誌を探し出して利用できるようになります。		

⑨ 6月14日 文獻・情報の探し方（3） レファレンス情報と新聞記事・企業情報の入手と利用【演習】	図書館職員 土田 大輔
レファレンス資料はどんなものがあり、どのように活用できるかを解説します。また新聞と新聞記事の特徴や違い、どんなことが調べられるのか範囲を見ながら理解します。そして、これらの資料を使った企業情報の探し方を演習を通して習得し、就職活動に役立てられるようになります。	
⑩ 6月21日 文獻・情報の探し方（4） （人社会データベースの紹介と電子情報の現在1）【演習】	図書館職員 久松 直子
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第11講と連続する内容になっています。	
⑪ 6月28日 文獻・情報の探し方（5） （人社会データベースの紹介と電子情報の現在2）【演習】	図書館職員 西脇 幸由子
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を入手できるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワーク等を交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第10講と連続する内容になっています。	
⑫ 7月5日 文獻・情報と図書館（1）図書館における情報のあり方 （分類と書誌情報、運営基盤、情報組織化）【演習】	図書館職員 柴屋 晋
運営からデータ入力、配架までの一連の流れを紹介します。さらに、図書館システムとOPACとの関係を中心に、大学図書館における情報組織化の仕組みを理解し、皆さんの今後の図書館利用に役立つよう解説します。また、資料の分類法についても紹介します。	
⑬ 7月12日 文獻・情報と図書館（2）（最新トピック）【演習】	図書館職員 矢野 恵子
図書館と学術情報とめる現在の状況・問題と課題を知り、問題の背景を理解し、今後の学術情報のあり方について考えます。大学図書館コンソーシアムとオープンアクセスの現状について、取り上げる予定です。	
⑭ 7月19日 まとめと総合テスト	経営学部専任教授 森 久 図書館職員 西脇 幸由子
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の根幹に陥らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	
3 履修上の注意	
教員と図書館職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けていないと受講できません。	
4 準備学習の内容	
シラバスで毎回のテーマを確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある）を確認すること。第7回「文獻・情報の探し方（1）」の受講前には、図書館OPACの基礎的な検索方法を、過去年度のレジュマや、図書館HPに掲載している動画（「図書館リテラシー入門講座」）により、各自予習しておくこと。	
5 教科書	
教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書	
酒井聡樹著「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN978432006983） 佐藤肇著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋祐樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都府立情報科学研究所、ISBN9784830413236） 藤田節子著「図書館活用法：情報リテラシーを身につけるために」増訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784830416012）	
7 成績評価の方法	
第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。	
8 その他	

⑨ 6月13日 文獻・情報の探し方（4）雑誌論文②【演習】	図書館職員 飯塚 貴子・杉谷 美和
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を検索するには、論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。	
⑩ 6月20日 文獻・情報の探し方（5）レファレンス資料【演習】	図書館職員 土田 大輔・宮澤 聡子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率的に調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法。また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入力する方法を学びます。	
⑪ 6月27日 文獻・情報の探し方（6）新聞【演習】	図書館職員 小林 純一・矢野 恵子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における「空気」のようなのもつかい知ることができる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう解説します。	
⑫ 7月4日 文獻・情報の探し方（7）インターネット【演習】	図書館職員 角 祐二郎・久保木 和義
インターネット上の情報の検索、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて得る重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	
⑬ 7月11日 文獻・情報の探し方（8）（1）～（7）まとめ【演習】	図書館職員 藤田 賢一・関口 剛枝
これまでの授業で学んだ様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用してあるテーマを調査するのに必要な文獻を探す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて演習し自身の調査・検索における弱点を見つけて出し、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。	
⑭ 7月18日 まとめと総合テスト	文学部専任教授 齋藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子・図書館職員 関口 剛枝
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の根幹に陥らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確かなスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	
3 履修上の注意	
教員と専門の図書館職員およびメディア支援事務職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けていないと受講できません。	
4 準備学習の内容	
シラバスで毎回のテーマを確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある）を確認すること。	
5 教科書	
教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書	
酒井聡樹著「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN978432006983） 佐藤肇著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋祐樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都府立情報科学研究所、ISBN9784830413236） 藤田節子著「図書館活用法：情報リテラシーを身につけるために」増訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784830416012）	
7 成績評価の方法	
第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。	
8 その他	

初年度教育
リベラルアーツ講座

初年度教育
リベラルアーツ講座

和泉キャンパス（5 時限）

図書館活用法		コーディネーター
		文学部 齋藤 泰則
和泉	2単位 春学期	水曜日 5時限
1 授業の概要・到達目標 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 4月11日 イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明）		文学部専任教授 斎藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子
本講は、大学での学習に不可欠な図書館活用に必要な知識とスキルの習得を目指します。書誌・索引・辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。		
② 4月18日 図書館の機能と情報資源		文学部専任教授 斎藤 泰則
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探索するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。		
③ 4月25日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用		文学部専任教授 斎藤 泰則
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するために必要な百科事典や専門事典の活用、および書誌・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。		
④ 5月9日 図書館サービスと著作権		文学部専任教授 青柳 美治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に関して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。		
⑤ 5月16日 図書の歴史と図書館		文学部専任教授 三浦 太郎
図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在の姿に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな姿がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。		
⑥ 5月23日 文獻・情報の探し方（1）図書①【演習】		図書館職員 松本 康子・吉田 千草
明治大学図書館蔵書検索システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑦ 5月30日 文獻・情報の探し方（2）図書②【演習】		図書館職員 松本 康子・吉田 千草
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑧ 6月6日 文獻・情報の探し方（3）雑誌論文①【演習】		図書館職員 平田 さくら・齋本 信一
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌検索ページ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変換、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的な雑誌を探し出して利用できるようになります。		

《秋学期》

和泉キャンパス（4 時限）

図書館活用法		コーディネーター
		文学部 齋藤 泰則
和泉	2単位 秋学期	水曜日 4時限
1 授業の概要・到達目標 1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 9月26日 イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明）		文学部専任教授 斎藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子
本講は、大学での学習に不可欠な図書館活用に必要な知識とスキルの習得を目指します。書誌・索引・辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。		
② 10月3日 図書館の機能と情報資源		文学部専任教授 斎藤 泰則
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探索するために必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。		
③ 10月10日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用		文学部専任教授 斎藤 泰則
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をとおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するために必要な百科事典や専門事典の活用、および書誌・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。		
④ 10月17日 図書の歴史と図書館		文学部専任教授 三浦 太郎
図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在の姿に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな姿がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。		
⑤ 10月24日 文獻・情報の探し方（1）図書①【演習】		図書館職員 松本 康子・吉田 千草
明治大学図書館蔵書検索システム（Web-OPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑥ 10月31日 文獻・情報の探し方（2）図書②【演習】		図書館職員 松本 康子・吉田 千草
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑦ 11月14日 文獻・情報の探し方（3）雑誌論文①【演習】		図書館職員 関口 剛枝・齋本 信一
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌検索ページ、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変換、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的な雑誌を探し出して利用できるようになります。		
⑧ 11月21日 文獻・情報の探し方（4）雑誌論文②【演習】		図書館職員 関口 剛枝・齋本 信一
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すことはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を簡単に探し、入手することができるようになります。		

⑨ 6月13日 文獻・情報の探し方（4）雑誌論文②【演習】	図書館職員 平田 さくら・齋本 信一
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すことはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を簡単に探し、入手することができるようになります。	
⑩ 6月20日 文獻・情報の探し方（5）レファレンス資料【演習】	図書館職員 桑原 理恵・久松 薫子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率的に調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。	
⑪ 6月27日 文獻・情報の探し方（6）新聞【演習】	図書館職員 藤田 賢一・森崎 朝子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における“空気”のようなものもつかい知ることができる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。	
⑫ 7月4日 文獻・情報の探し方（7）インターネット【演習】	図書館職員 緒方 智弘 メディア支援職員 井上 拓弥
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	
⑬ 7月11日 文獻・情報の探し方（8）（1）～（7）まとめ【演習】	図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵
これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用してあるテーマを調査するのに必要な文獻を探す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つけ出し、さらにステップアップできる機会としてください。	
⑭ 7月18日 まとめと総合テスト	文学部専任教授 斎藤 泰則 図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	
3 履修上の注意 教員と専門の図書館職員およびメディア支援事務室職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けていないと受講できません。	
4 準備学習の内容 シラバスで毎回のテーマを検索し確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある。）を確認すること。	
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書 酒井聡樹著『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版（2017、共立出版、ISBN978432006983） 佐藤雅彦著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高瀬祐樹著『デジタル情報資源の検索』増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究学会、ISBN9784830413226） 藤田節子著『図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために』新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著『文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本』第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）	
7 成績評価の方法 第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。	
8 その他	

初年次教育・リベラルアーツ講座

⑨ 11月28日 文獻・情報の探し方（5）レファレンス資料【演習】	図書館職員 桑原 理恵・久松 薫子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率的に調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。	
⑩ 12月5日 文獻・情報の探し方（6）新聞【演習】	図書館職員 藤田 賢一・西脇 亜由子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における“空気”のようなものもつかい知ることができる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。	
⑪ 12月12日 図書館サービスと著作権	文学部専任教授 青柳 美治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に関して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。	
⑫ 12月19日 文獻・情報の探し方（7）インターネット【演習】	図書館職員 角 祐二郎・藤田 賢一
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	
⑬ 1月9日 文獻・情報の探し方（8）（1）～（7）まとめ【演習】	図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵
これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用してあるテーマを調査するのに必要な文獻を探す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つけ出し、さらにステップアップできる機会としてください。	
⑭ 1月16日 まとめと総合テスト	文学部専任教授 斎藤 泰則 図書館職員 畑野 蘭子・桑原 理恵
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	
3 履修上の注意 教員と専門の図書館職員およびメディア支援事務室職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けていないと受講できません。	
4 準備学習の内容 シラバスで毎回のテーマを検索し確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある。）を確認すること。	
5 教科書 教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書 酒井聡樹著『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版（2017、共立出版、ISBN978432006983） 佐藤雅彦著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高瀬祐樹著『デジタル情報資源の検索』増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究学会、ISBN9784830413226） 藤田節子著『図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために』新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著『文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本』第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）	
7 成績評価の方法 第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。	
8 その他	

初年次教育・リベラルアーツ講座

和泉キャンパス（5 時限）

図書館活用法		コーディネーター
		文学部 齋藤 泰則
和泉	2 単位 秋学期	水曜日 5 時限
1 授業の概要・到達目標		
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 9月26日 イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明）		文学部専任教授 齋藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子
本講義は、大学での学習に必要な図書館活用法に必要な知識とスキルの習得を目的とします。書誌・索引・辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書・雑誌記事、論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。		
② 10月3日 図書館の機能と情報資源		文学部専任教授 齋藤 泰則
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供することにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の課題に関する文獻を探索するために必要な探索戦略の機能が可能なスキルの習得を目指します。		
③ 10月10日 レポート・論文の作成と図書館情報資源の活用		文学部専任教授 齋藤 泰則
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程の各段階において必要となる専門知識や情報を入手するために必要な百科事典や専門事典の活用、および書誌・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）について詳しく取り扱います。		
④ 10月17日 図書の歴史と図書館		文学部専任教授 三浦 太郎
図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな変化がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。		
⑤ 10月24日 文獻・情報の探し方（1）図書①【演習】		図書館職員 小倉 きなえ・櫻井 真理子
明治大学図書館蔵書検索システム（WebOPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようになります。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑥ 10月31日 文獻・情報の探し方（2）図書②【演習】		図書館職員 小倉 きなえ・櫻井 真理子
前回の内容をもまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。		
⑦ 11月14日 文獻・情報の探し方（3）雑誌論文①【演習】		図書館職員 平田 さくら・移登 美和
図書の探検の進め方を理解したうえで、OPACの雑誌データベース、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変換、一括検索機能などを含まれます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的に雑誌を探し出して活用できるようになります。		
⑧ 11月21日 文獻・情報の探し方（4）雑誌論文②【演習】		図書館職員 平田 さくら・移登 美和
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌で検索することはできません。その中の論文・記事を確認するには、記事単位での検索を行うためには、OPACには別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。		

生田キャンパス

図書館活用法		コーディネーター
		管 啓次郎
生田	2 単位 秋学期	金曜日 4 時限
1 授業の概要・到達目標		
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）		
2 授業内容		
① 9月21日 イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明）		理工学部専任教授 管 啓次郎 生田図書館事務長 東藤 達也
教育・研究支援機関としての図書館は、大学の施設の中で最も複雑で多面的な機能を持っています。第1回目は本講義の概要、成績評価方法に関する説明等に加え、「有意義な大学生活を過ごすための上手な図書館の利用方法」についてもお話しします。		
② 9月28日 レポート・論文の書き方		理工学部専任教授 管 啓次郎
レポートや論文を作成する際には、論考や資料の書き方にならないよう先行研究を参照する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにレポートや論文の中に取り入れ、表記するのがよいのかという点についてもお話しします。先行研究の趣旨を正しく理解し、適切な脈絡において引用すること、参照箇所を明示しておくこと等が大切です。		
③ 10月5日 本と教養1		理工学部専任教授 倉石 信乃
ヒトは獲得した知識をもとめ世界を記述するのに、もっぱら書字と図像に頼ってきた。それらをもっともコンパクトかつポータブルなかたちでパッケージ化したものが、本だ。本こそが教養の基盤であり、知的探求の最良の道具であることは、電子情報化の時代になっても変わらない。シリーズ「本と教養」では、人文分野の教員たちが、本との出会いとつきあひ方を半輩にしめす。本と教養1では美術史・写真史の研究者が、広く美術史と現代との接点を論じつつ、興味深い本を紹介する。		
④ 10月12日 文獻・情報の探し方（1）図書【演習】		図書館職員 辻 薫
明治大学図書館蔵書検索システム（WebOPAC）の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようになります。また、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて、具体的な説明・演習を行います。		
⑤ 10月19日 図書館と著作権・レポートを書くために～		情報コミュニケーション学部専任教授 今村 哲也
学習、研究、論文、レポートの作成においては、多くの図書や雑誌（論文）、インターネット上の情報も利用します。これらの著作物・情報の利用にあたっては、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法に沿った文獻・情報の適切な利用方法学びます。		
⑥ 10月26日 文獻・情報の探し方（2）雑誌論文①【演習】		図書館職員 倉本 信一
図書の探検の進め方を理解したうえで、OPACの雑誌データベース、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変換、一括検索機能などを含まれます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的に雑誌を探し出して活用できるようになります。		
⑦ 11月9日 文獻・情報の探し方（3）雑誌論文②【演習】		図書館職員 倉本 信一
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌で検索することはできません。その中の論文・記事を確認するには、記事単位での検索を行うためには、OPACには別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。		
⑧ 11月16日 本と教養2		理工学部専任教授 渡戸 剛 最太
本と教養2の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。小説家トマス・ピンチオンを専門とするの人ならず、広くメディアの歴史やデザインに関心を持ち、自作の本を制作している。教養があたりをとると、モノになる位相も見えめながら、書物と文化との関係を再考する。		

⑨ 11月28日 文獻・情報の探し方（5）レファレンス資料【演習】		図書館職員 土田 大輔・宮澤 順子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率的に調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書館およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。		
⑩ 12月5日 文獻・情報の探し方（6）新聞【演習】		図書館職員 小林 純一・矢野 恵子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における「空気」のうなもものうかがい知ることができる有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。		
⑪ 12月12日 図書館サービスと著作権		文学部専任教授 菅野 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則って図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。		
⑫ 12月19日 文獻・情報の探し方（7）インターネット【演習】		図書館職員 篠方 智弘 メディア支援職員 井上 拓哉
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。		
⑬ 1月9日 文獻・情報の探し方（8）①～⑦まとめ【演習】		図書館職員 盛田 賢一・四口 剛枝
これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用してあるテーマを調査するのに必要な文獻を探求演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つめ出し、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。		
⑭ 1月16日 まとめと総合テスト		文学部専任教授 齋藤 泰則 和泉図書館事務長 折戸 晶子/図書館職員 四口 剛枝
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意		
教員と専門の図書館職員およびメディア支援事務室職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けないと受講できません。		
4 準備学習の内容		
シラバスで毎回のテーマを検索し確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある。）を確認すること。		
5 教科書		
教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書		
西村聰樹著「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN9784320006983） 佐藤聖賢著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋裕樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）		
7 成績評価の方法		
第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。		
8 その他		

⑨ 11月30日 文獻・情報の探し方（4）レファレンス資料【演習】		図書館職員 寺土 真理
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率的に調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書館およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。		
⑩ 12月7日 文獻・情報の探し方（5）専門情報・新聞【演習】		図書館職員 小林 純一
自然科学分野についての「文獻・情報」には、図書、雑誌論文の他にも、活用すべき専門資料があります。例えば、特許や規格などがそれに当たります。これらの自然科学分野の専門資料について、それぞれの特徴、探索・入手方法を学びます。またこの授業では演習を行い、新聞を使いこなす技術が身につくよう練習します。		
⑪ 12月14日 本と教養3		理工学部専任教授 清岡 智比古
本と教養3の担当者はフランス文学、映画および都市文化の研究者。フランス映画に描かれる都市を、特に移民問題、宗教的対立や地域差といった具体的な側面から掘り下げて、映像を読み解くにも、その鍵を握るのは知識、総合芸術としての映画への招待がかわつ、現代世界文化を考える。		
⑫ 12月21日 本と教養4		理工学部専任教授 飯田 崇
本と教養4の担当者は哲学者、環境人文学者、民族研究とともに、生活の中に埋めこまれた考え方、感じ方、人とのつながり、人と土地や風土の関わりなどを、現地調査をつうじて考えてきた。ここでは環境人文的思考を念頭に置き、現代の教養がめざすべき方向をさぐる。		
⑬ 1月11日 文獻・情報の探し方（6）インターネット【演習】		図書館職員 角 祐二郎
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。		
⑭ 1月18日 まとめと総合テスト		理工学部専任教授 管 啓次郎 図書館職員 宮澤 順子
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。		
3 履修上の注意		
教員と専門の図書館職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索等を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けないと受講できません。		
4 準備学習の内容		
シラバスで毎回のテーマを検索し確認すること。授業内で配付した資料（図書館HPにアップするものもある。）を確認すること。		
5 教科書		
教材として印刷資料を配付します。		
6 参考書		
西村聰樹著「これからレポート・卒論を書く若者のために」第2版（2017、共立出版、ISBN9784320006983） 佐藤聖賢著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高橋裕樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）		
7 成績評価の方法		
第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。		
8 その他		

中野キャンパス

図書館活用法		コーディネーター	
		国際日本学部 美濃部 仁	
中野	2単位 秋学期	月曜日	5時間
1 授業の概要・到達目標			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる。（図書リテラシー）			
2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用ができるようになる（情報リテラシー）			
3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）			
2 授業内容			
① 9月24日	イントロダクション（講義の概要、成績評価方法等の説明）	国際日本学部専任教授 図書館職員	久保本 和義
本講義は、大学での学習に不可欠な図書館活用に必要な知識とスキルの習得を目指す。書誌・索引・辞書・事典などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文獻の検索法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。そのレポート課題については、課題の趣旨やねらいについて触れるとともに、成績評価について説明します。			
② 10月1日	レポート・論文の作成方法	国際日本学部専任教授	美濃部 仁
レポートや論文を作成する際には、自分の研究の位置が明らかになるように先行研究に言及する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにレポートや論文の中に取り入れ、表記するのが適切かどうかということについてもお話しします。先行研究の趣旨を正しく理解し、適切な脈絡において引用すること、参照箇所を明示しておくことなどが大切です。			
③ 10月8日	図書館の歴史	総合教理学部専任教授	砂田 利一
人類の知的遺産の保管庫でもある図書館は、収めるべきものを選び、それを必要とする人々に供する施設でもある。はるか昔に、既にかつての考え方でエンブリトに図書館が建設され、その後世界の各地に特筆すべき図書館が登場した。そして、そこに収められていた学術的書誌は、様々な形で現代の学問に繋がっているのである。この講義では、図書館の歴史を振り返りながら、哲学、数学、自然科学の発展と図書館との関わりについて解説する。			
④ 10月15日	図書館サービスと著作権	文学部専任教授	吉柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールも理解も目指します。			
⑤ 10月22日	書物の楽しみ	総合教理学部専任教授	柴崎 礼士郎
テレビドラマ「地味にスゴい」校園ガール・河野竜子「が話題になったことは記憶に新しい。近年、新聞、雑誌、辞書などの編集過程を紹介する書籍が相次いで刊行されていることも周知ではないと思われる。周知には、書き言葉の歴史が古く豊富な資料にアクセス可能な言語もあり、日本語や英語もその一部を成している。そこで、入手可能なものを基に、資料としての本の大切さや興味深さを、できる限り日常生活と関連付けながら紹介してみたい。時間が許せば、明治大学とも縁深い特保町の敷地などにも触れたい。			
⑥ 10月29日	文獻・情報の探し方（1）図書①【演習】	図書館職員	小野 聡
明治大学図書館蔵書検索システム（WebOPAC）の検索方法、検索結果である目録・分冊、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率よく使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑦ 11月12日	文獻・情報の探し方（2）図書②【演習】	図書館職員	小野 聡
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
⑧ 11月19日	文獻・情報の探し方（3）雑誌論文①【演習】	図書館職員	豊満 朝子
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データベース、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変換、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率よく雑誌を探し出して利用できるようになります。			

⑨ 11月26日 文獻・情報の探し方（4）雑誌論文②【演習】	図書館職員 豊満 朝子
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接探すことはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必用とする論文を素早く簡便に探し、入手することができるようになります。	
⑩ 12月3日 文獻・情報の探し方（5）レファレンス資料【演習】	図書館職員 久保本 和義
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれています。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入手する方法を学びます。	
⑪ 12月10日 文獻・情報の探し方（6）新聞【演習】	図書館職員 豊満 朝子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせば事例や事件を調べるだけでなく、世論などその時代における「空気」のようなものもつかい知ることが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。	
⑫ 12月17日 文獻・情報の探し方（7）インターネット【演習】	図書館職員 久保本 和義
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。	
⑬ 1月7日 文獻・情報の探し方（8）（1）～（7）まとめ【演習】	図書館職員 豊満 朝子
これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用してあるテーマを調査するのに必要な文獻を探す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つけ出しさらにステップアップできる機会とさせていただきます。	
⑭ 1月21日 まとめと総合テスト	国際日本学部専任教授 美濃部 仁 図書館職員 久保本 和義
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。	
3 履修上の注意	
教員と専門の図書館職員およびメディア支援事務室職員が、それぞれのテーマを分担します。講義（概論）と演習を有機的に組み合わせ、演習では実際にパソコンを操作してデータベース検索を行います。なお、演習授業は、情報基盤本部が実施するMIND利用講習会を事前に受けていないと受講できません。	
4 準備学習の内容	
シラバスで毎回のテーマを検索し確認すること。授業内で配布した資料（図書館HPにアップするものもある。）を確認すること。	
5 教科書	
教材として印刷資料を配付します。	
6 参考書	
酒井忠勝著「これからレポート・卒論を書く者のために」第2版（2017、先立出版、ISBN978432006983） 佐藤編著「アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門」第2版（2012、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766419603） 高根裕樹著「デジタル情報資源の検索」増訂第5版（2014、京都図書館情報学研究学会、ISBN9784830413236） 森田節子著「図書館活用術：情報リテラシーを身につけるために」新訂第3版（2011、日外アソシエーツ、ISBN9784816923432） 毛利和弘著「文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本」第7版（2016、毛利和弘、ISBN9784820416012）	
7 成績評価の方法	
第1回の授業で成績評価について説明します。 ①平常点（50%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（25%）を総合的に判断する予定です。	
8 その他	

初年次教育・リベラルアーツ課程